

平成28年度 3学期

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

- 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

小3 国語

「書く能力」の定着に課題が残る

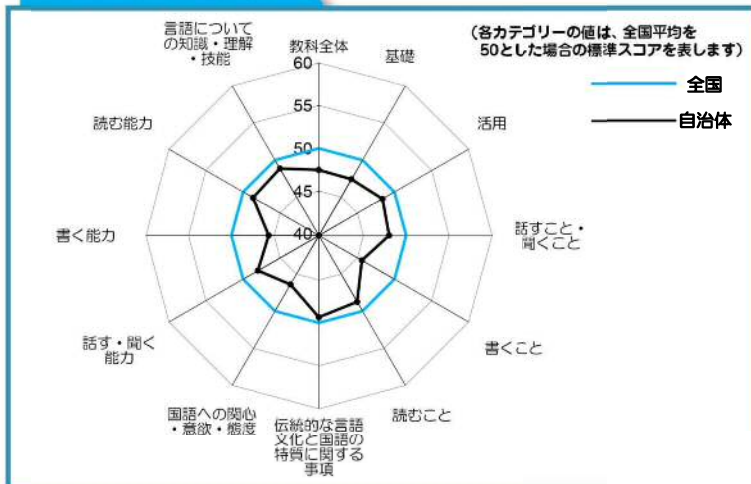
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.6	61.7	★
基礎		66.1	63.3	★
活用		58.0	54.4	★
領域別	話すこと・聞くこと	65.0	64.9	★
	書くこと	45.0	27.6	★
	読むこと	65.8	61.6	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.4	71.7	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	58.1	52.0	★
	話す・聞く能力	65.0	64.9	★
	書く能力	46.0	31.6	★
	読む能力	61.8	57.4	★
	言語についての知識・理解・技能	69.2	69.6	★

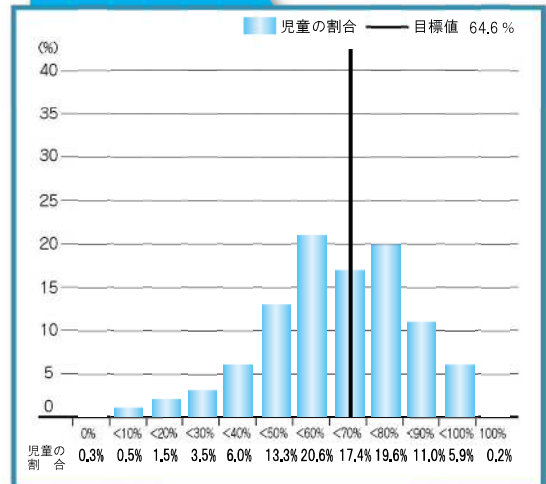
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が61.7%
- で、目標値を2.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語について
- の知識・理解・技能」が69.6%で、目標値
- を0.4ポイント上回った。一方、「書く能
- 力」が31.6%で、目標値を14.4ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 40.0% 正答率 18.8% 差 ▲21.2 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ことの意味が十分に理解できていないと、文章を組み立てることができなくなってしまう。まずは、「段落」という定義を正しく捉えさせることが大切である。その上で、教科書の教材文を形式段落に分けさせたり、一続きの文章を、話題の切り替わりによっていくつかの段落に分けさせたりする練習を積み重ねるとよい。

せつ明文の内よよを読みとる

大問5(1)

<ねらい> 文章の内容を的確に読み取ることができる。

目標値 75.0% 正答率 66.0% 差 ▲9.0 ポイント

指導のポイント 細かい点に注意しながら文章を読むことができるかを見る問題である。日常の学習では、こうした詳細な読解に偏りすぎないことも大切であるが、詳細な読解を行わなければ身に付かない言葉の力もある。読むことの教材を扱うにあたり、そこでのねらいをはっきりさせて、大事な部分については詳細な読解も取り入れていくようにしなければならない。

小3 算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

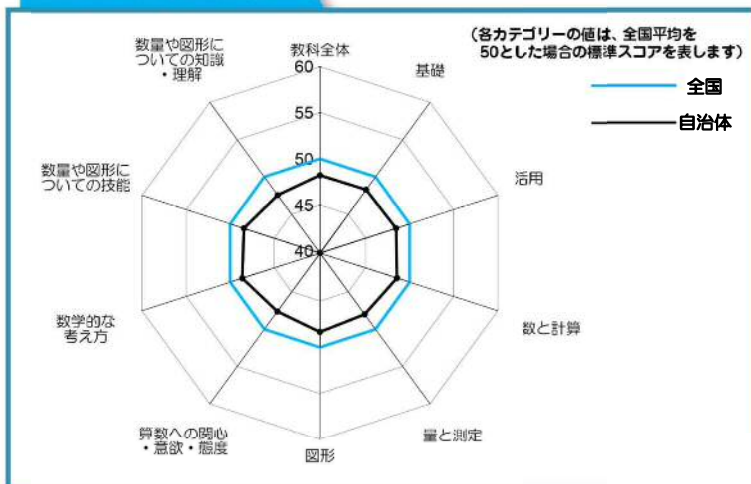
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		69.0	63.7	★
基礎		74.6	70.7	★
活用		54.5	45.7	★
領域別	数と計算	68.8	65.0	★
	量と測定	71.3	62.5	★
	図形	65.0	56.5	★
観点別	算数への関心・意欲・態度	64.1	54.7	★
	数学的な考え方	60.9	54.6	★
	数量や図形についての技能	71.2	65.9	★
	数量や図形についての知識・理解	70.2	64.0	★

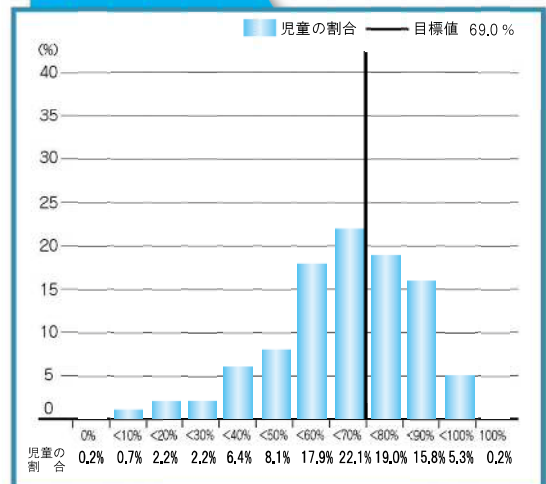
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が63.7%
- で、目標値を5.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数へ
- の関心・意欲・態度」が54.7%で、目標値
- を9.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

時こくと時間

大問18(1)

<ねらい> 順思考で、目的地に着く時刻を求めることができる。

目標値 40.0% 正答率 8.7% 差 ▲31.3 ポイント

指導のポイント 家から北公園前のバス停まで何分かかり、北公園前で何時何分出発のバスに乗ることができるのか、北公園前から市民ホール前まで、市民ホール前から花屋まで、それぞれ何分かかかるのか、これらを基にして、どのような計算をすればよいのか、というように順序よく筋道を立てて考えていくことが大切である。本問のような場面は、日常生活や校外学習などで実際にある場面である。集合時刻に間に合うようにするにはどうしたらよいのか、考えさせることもある。そのような経験を想起させつつ、検討させるとよい。

かけ算

大問16

<ねらい> 700×3 の計算のしかたを、100の何個分かをもとに説明することができる。

目標値 60.0% 正答率 40.2% 差 ▲19.8 ポイント

指導のポイント 問題で示された考え方を理解し、その考え方をを用いて計算の仕方を説明する問題である。的確に説明するためには、まず例示された考え方を正確に理解することが大切である。日頃の授業においても、児童それぞれの考えを発表させたり、理解できるようにさせたりする活動を取り入れ、よりよい考えを自分のものにする過程を重視した指導を行いたい。

小4 国語

「書く能力」の定着に課題が残る

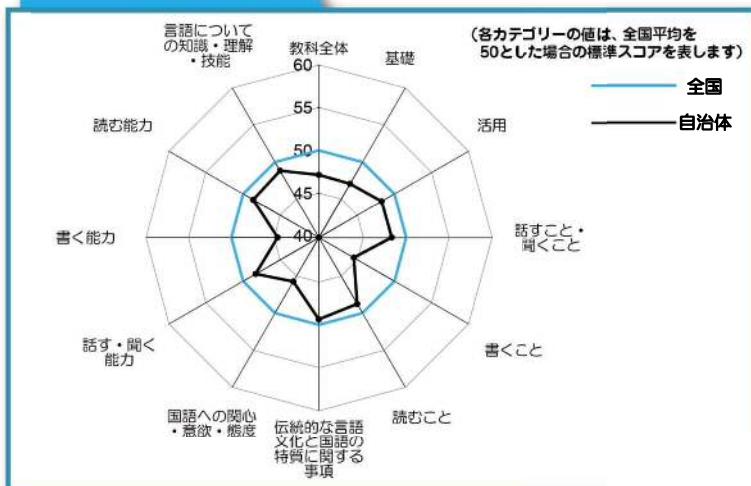
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		65.4	62.7	★
基礎		68.5	65.5	★
活用		51.0	50.2	★
領域別	話すこと・聞くこと	53.8	50.0	★
	書くこと	45.0	26.7	★
	読むこと	70.7	74.1	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.6	75.4	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	49.4	38.9	★
	話す・聞く能力	53.8	50.0	★
	書く能力	45.5	28.2	★
	読む能力	65.3	67.6	★
	言語についての知識・理解・技能	73.4	73.2	★

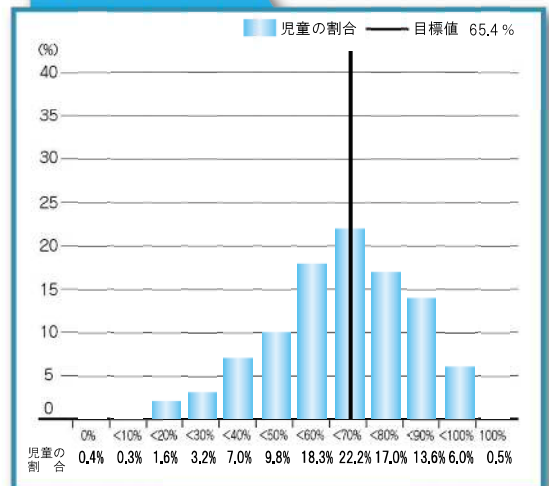
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が62.7%
- で、目標値を2.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「読む能力」が
- 67.6%で、目標値を2.3ポイント上回っ
- た。一方、「書く能力」が28.2%で、目標
- 値を17.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 45.0% 正答率 22.6% 差 ▲22.4 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ということを理解し、実際に段落分けができることが求められる。段落分けができなかった児童に対しては、まず教科書の教材文を示して、段落とはどういうものかを教える必要がある。その上で、意図的に段落のない短い文章を示し、話題の切り替わる場所で段落分けをさせると、段落意識をもたせることができる。

言葉の学習

大問3(2)

<ねらい> 文の構成(述語)について理解している。

目標値 70.0% 正答率 58.9% 差 ▲11.1 ポイント

指導のポイント 述語は、主語と述語の倒置がないものについては、ほとんどの場合文末にくる。それを基本として、述語について考えるようにすればよい。本問は、述語についてのみ問うているが、主語と述語の両方について問う問題の場合には、述語をしっかり押さえることができれば主語が探しやすくなるので、述語から探すように指導していくと効果的である。

小4算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

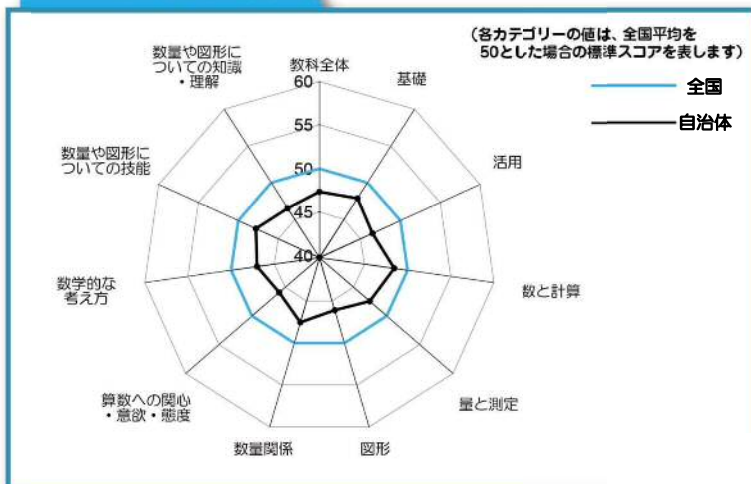
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.9	58.2	★
基礎		68.1	63.1	★
活用		55.0	43.5	★
領域別	数と計算	69.4	63.7	★
	量と測定	66.4	61.1	★
	図形	41.3	28.5	★
	数量関係	65.0	58.0	★
観点別	算数への関心・意欲・態度	63.0	47.3	★
	数学的な考え方	61.9	53.6	★
	数量や図形についての技能	67.5	61.1	★
	数量や図形についての知識・理解	60.0	51.5	★

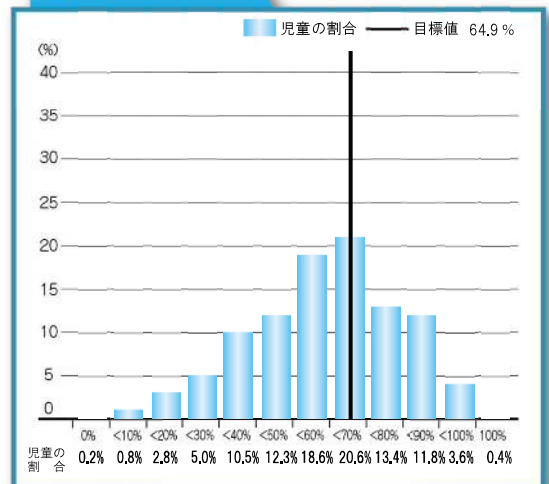
分析コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が58.2%
- で、目標値を6.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数へ
- の関心・意欲・態度」が47.3%で、目標値
- を15.7ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

垂直・平行と四角形

大問15

<ねらい> 平行四辺形の作図ができる。

目標値 60.0% 正答率 29.4% 差 ▲30.6 ポイント

指導のポイント 平行四辺形は、向かい合った2組の辺の長さが等しく、平行である。この性質が理解できていれば、既にある2辺に続けて正しい辺をかくことができるだろう。図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけでなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れることが大切である。そうした活動を通して、図形への理解を深めていく必要がある。

わり算

大問17

<ねらい> わり算の性質を理解し、工夫したわり算のしかたを説明できる。

目標値 45.0% 正答率 15.9% 差 ▲29.1 ポイント

指導のポイント わり算の性質は、小数のわり算、分数のわり算の計算の仕方を学習する際に用いる考え方である。この性質を用いると、わり算の計算が簡単になることに触れ、わり算の性質のもつよさについても指導する必要がある。また、授業では、友達のを理解できるように指導し、別の問題でその考えと同じように解決させる、あるいは説明させるような活動を取り入れるとよい。

小5 国語

「書く能力」の定着に課題が残る

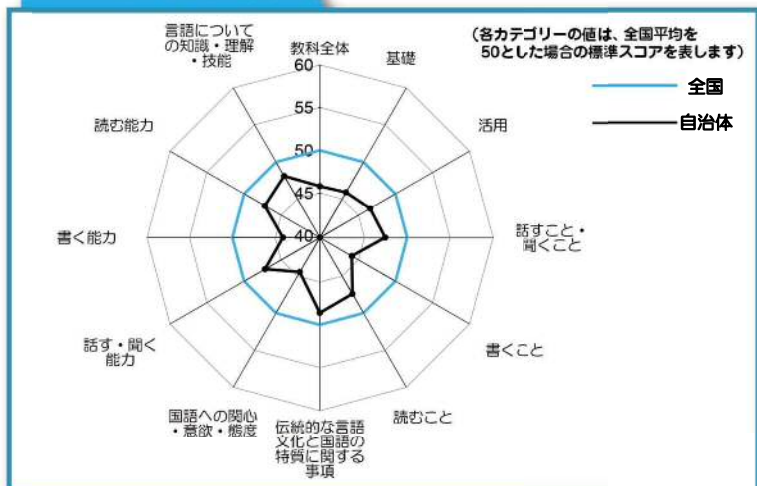
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		69.3	65.1	★
基礎		71.1	66.6	★
活用		61.0	58.1	★
領域別	話すこと・聞くこと	71.7	71.3	★
	書くこと	70.8	53.2	★
	読むこと	65.7	61.1	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	71.8	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	71.3	61.3	★
	話す・聞く能力	68.6	68.3	★
	書く能力	69.2	52.8	★
	読む能力	65.6	61.5	★
	言語についての知識・理解・技能	70.0	70.7	★

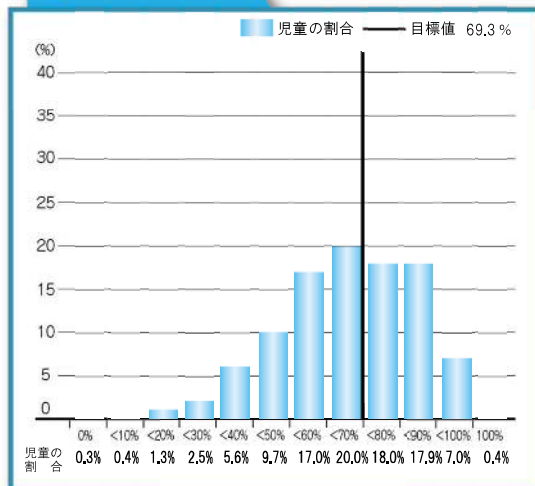
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が65.1%で、目標値を4.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語についての知識・理解・技能」が70.7%で、目標値を0.7ポイント上回った。一方、「書く能力」が52.8%で、目標値を16.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 指定された長さで文章を書くことができる。

目標値 65.0% 正答率 35.6% 差 ▲29.4 ポイント

指導のポイント 141～200字で書くことができるかを見る問題である。書くことの第一段階は、何について書くのか、主題をはっきりさせることである。これは、次に続く取材や構成、記述などの土台となるので、自分は何について書いているのか、常に立ち止まって確認する習慣を付けるようにすることが大切である。日頃から、200字程度で大事なことを押さえて書く経験を多く積ませることが必要である。

物語の内ようを読み取る

大問4(2)

<ねらい> 場面の描写を読み取ることができる。

目標値 80.0% 正答率 68.6% 差 ▲11.4 ポイント

指導のポイント 読み取りの問題では、児童はどうしても設問箇所だけに注目してしまい、場面の様子や登場人物の人間関係など、作品全体の流れをしっかりと理解しないまま解こうとする傾向がある。まずは、作品全体としてどのような話であったかということを理解させ、その上で細部について考えるような読み方を身に付けさせる必要がある。授業においては、全体と細部の関係を意識して指導することが大切である。

小5算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

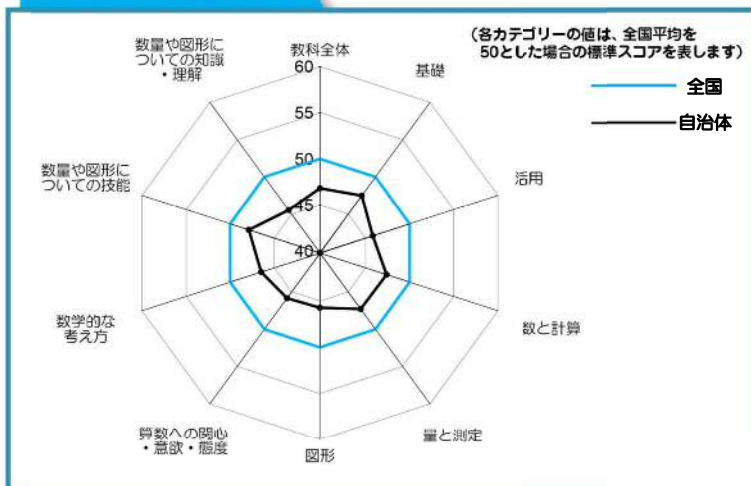
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		60.9	54.2	★
基礎		64.5	59.1	★
活用		45.7	32.9	★
領域別	数と計算	62.6	57.1	★
	量と測定	53.3	46.7	★
	図形	70.0	52.2	★
観点別	算数への関心・意欲・態度	49.2	35.3	★
	数学的な考え方	49.7	41.4	★
	数量や図形についての技能	68.2	63.9	★
	数量や図形についての知識・理解	59.6	48.3	★

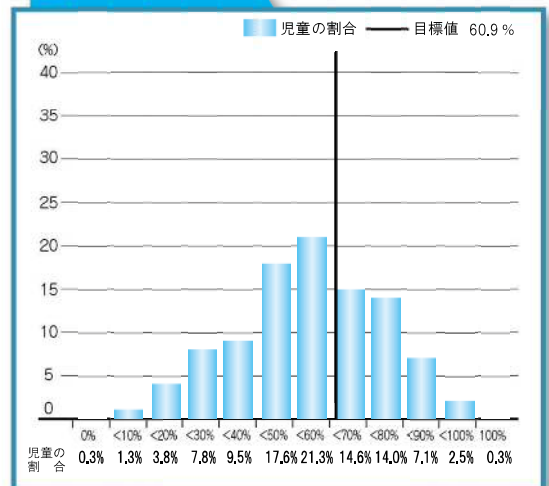
分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が54.2%で、目標値を6.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「算数への関心・意欲・態度」が35.3%で、目標値を13.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

合同

大問21

<ねらい> 合同な三角形を作図できる条件がわかる。

目標値 45.0% 正答率 19.2% 差 ▲25.8 ポイント

指導のポイント 合同な三角形の作図指導においては、作図の方法を考えさせ、三角形の合同条件を利用した3つの方法を見いださせることが大切であるが、作図技能を高めることも大切である。3つの方法をまとめて覚えることで終わりにするのではなく、3つの方法で何度も作図をすることで、技能を高め、三角形の合同についての理解を深めていきたい。

整数のなかま分け

大問23(3)

<ねらい> 問題の場面を理解し、3つの数の最小公倍数を使って、立方体の箱の1辺の長さを求めることができる。

目標値 40.0% 正答率 23.9% 差 ▲16.1 ポイント

指導のポイント 公倍数や最小公倍数の学習は、分数を通分するときに活用できる。したがって、2数あるいは3数の最小公倍数を求める問題の習熟を図る指導が中心になりがちである。習熟を図ることも大切であるが、公倍数のよさについても指導したい。2つ以上の数には必ず共通の倍数がある。本問の場合であれば、ジュースのどの辺を高さにしても、同じ向きに詰めれば隙間なく詰めることができるという面白さに気付くように指導したい。

小6 国語

「書く能力」の定着に課題が残る

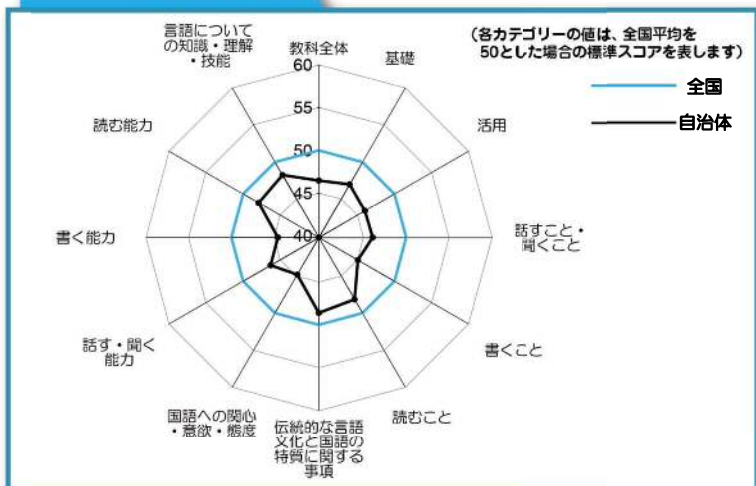
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		72.0	69.5	★
基礎		74.3	72.6	★
活用		61.0	55.4	★
領域別	話すこと・聞くこと	65.0	59.1	★
	書くこと	76.3	63.9	★
	読むこと	77.9	80.3	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	69.3	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	69.4	61.4	★
	話す・聞く能力	70.0	63.4	★
	書く能力	68.2	56.3	★
	読む能力	74.4	76.6	★
	言語についての知識・理解・技能	70.2	69.0	★

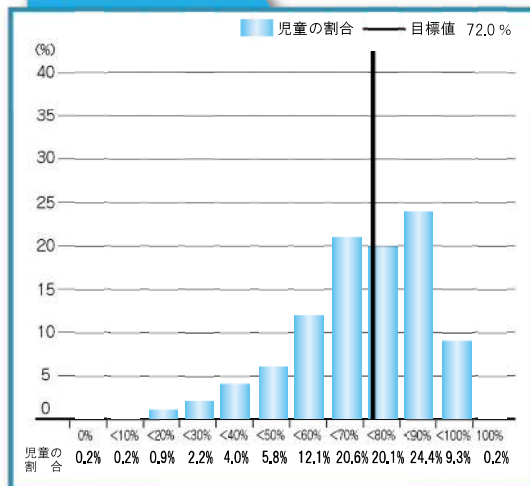
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が69.5%
- で、目標値を2.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「読む能力」が
- 76.6%で、目標値を2.2ポイント上回っ
- た。一方、「書く能力」が56.3%で、目標
- 値を11.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

話し合いの内容を聞き取る

大問1(3)

<ねらい> 司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができる。

目標値 50.0% 正答率 23.6% 差 ▲26.4 ポイント

指導のポイント 話し合いで児童に指導するポイントはいくつかあるが、まずは話し合いの目的を押さえることである。活発そうに見える話し合いであっても、目的に沿ったものでなくては、効果的な話し合いにならないからである。本問では、外国の人を日本に迎えるにあたって、私たちはどのようなことをするべきかということ、司会者の発言から押さえる必要がある。それを理解した上で、西川さんの発言に対して、司会者はどのような注意をしたらよいかを捉えさせたい。

作文

大問7

<ねらい> グラフから読み取った事実を書くことができる。

目標値 70.0% 正答率 58.5% 差 ▲11.5 ポイント

指導のポイント アンケート調査に関するデータについて分析したこと、それに対する自分の考えを二段落構成で書く問題である。第一段落には、グラフから読み取ったことを書く。グラフ中の、顕著な特徴のあるところに着目し、数値を正確に引用することに注意させたい。なお、グラフや表などの資料が複数ある場合、いずれの資料から読み取ったことについて書いても誤りではないが、全ての資料から総合的に判断したことを書くことが望ましい。複数の資料を比較して何が分かるのか、という視点をもたせることが大切である。

小6算数

「数学的な考え方」の定着に課題が残る

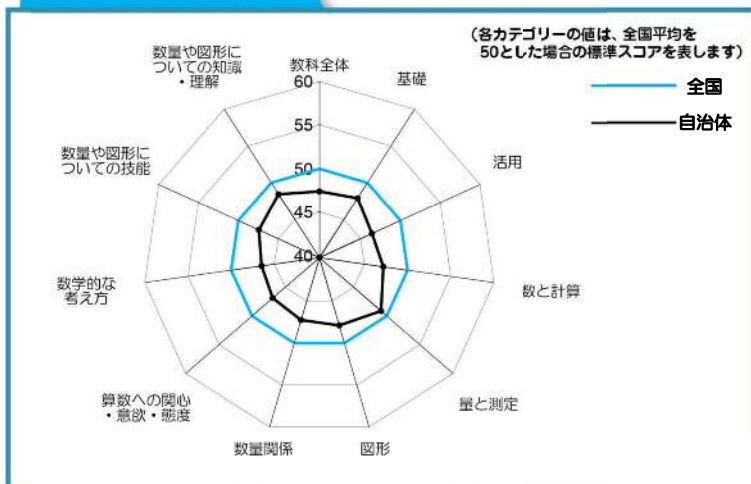
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.5	61.6	★
基礎		67.8	63.8	★
活用		60.7	52.0	★
領域別	数と計算	70.9	65.2	★
	量と測定	60.0	57.7	★
	図形	79.0	77.0	★
	数量関係	54.3	46.2	★
観点別	算数への関心・意欲・態度	58.3	51.6	★
	数学的な考え方	56.2	46.3	★
	数量や図形についての技能	70.3	66.1	★
	数量や図形についての知識・理解	67.3	64.4	★

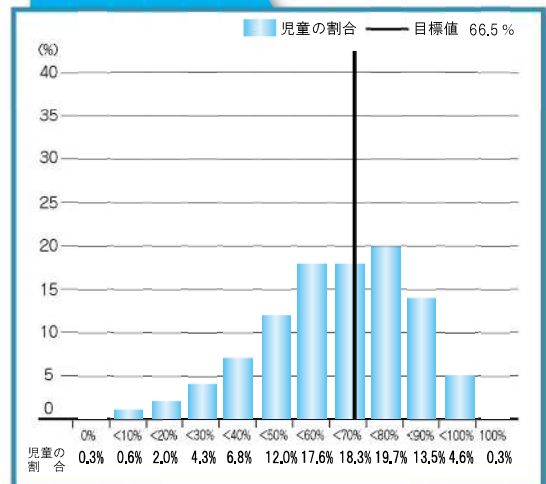
分析コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が61.6%
- で、目標値を4.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数学的
- な考え方」が46.3%で、目標値を9.9ポイ
- ント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 分数の除法の文章問題を表した図がわかる。

目標値 75.0% 正答率 57.3% 差 ▲17.7 ポイント

指導のポイント 扱う数が分数になると、かけるのかわるのか、わる場合はどちらをどちらでわるのかわらなくなる。この場合は、数量の関係を簡潔に表す道具として数直線を用い、数直線上に問題場面の数量の関係を正しく表せば、どんな演算になるかが分かる。数直線をかけるようにすること、数直線から演算の決定ができるようにすることが大切である。かけ算やわり算の問題場面では、必ず数直線をかかせるように指導するとよい。

比と比の値

大問16(2)

<ねらい> 比を使って、部分の量から全体の量を求めることができる。

目標値 35.0% 正答率 23.9% 差 ▲11.1 ポイント

指導のポイント 比から部分の量を求め、その数から全体の量を求めるという2段階で考える問題である。このような問題では、いくつかの式を立てることが必要となる。日頃の授業に、自分の考えを式で表現したり、ほかの児童が立てた式を読み取ったりする活動を多く取り入れ、筋道を立てて考えることができるように指導することが大切である。

平成28年度 3学期

東大阪市標準学力調査 考察資料

中学校

調査目的

- 東大阪市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の中学校の1・2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

中1 国語

「読む能力」の定着に課題が残る

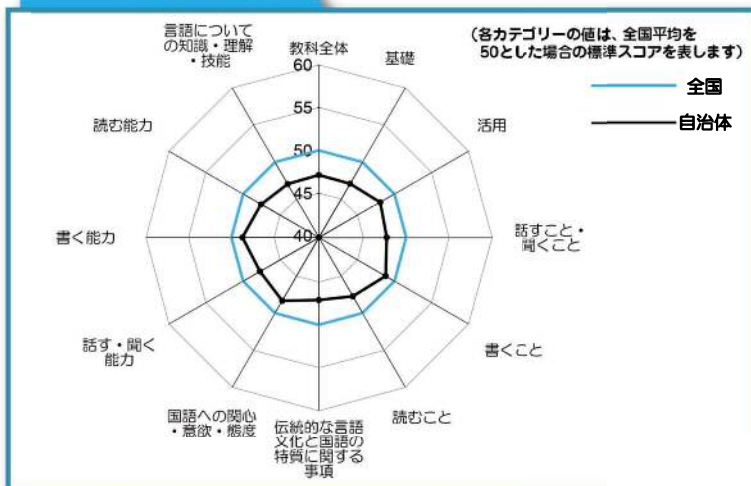
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		62.5	58.8	★
基礎		67.0	63.5	★
活用		46.4	42.0	★
領域別	話すこと・聞くこと	62.9	60.0	★
	書くこと	63.0	58.9	★
	読むこと	57.5	53.0	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.4	61.9	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	63.9	61.0	★
	話す・聞く能力	62.9	60.0	★
	書く能力	58.3	54.0	★
	読む能力	56.8	52.4	★
	言語についての知識・理解・技能	65.2	61.5	★

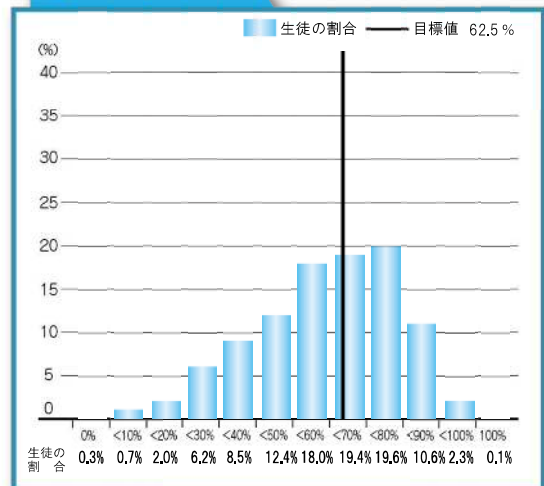
分析 コメント

- 中1国語は、教科全体の正答率が58.8%
- で、目標値を3.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「読む能
- 力」が52.4%で、目標値を4.4ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)②

<ねらい> 小学校で学習した漢字を書くことができる。

目標値 55.0% 正答率 37.3% 差 ▲17.7 ポイント

指導のポイント 漢字に習熟させるためには、日頃から生徒が漢字に触れる機会をできるだけ増やす必要がある。特に漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣と使用の仕方を身に付けていくことが重要である。文脈に即して適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習させることが大切である。

作文

大問7

<ねらい> 文章の内容に沿ったまとめを書くことができる。

目標値 70.0% 正答率 61.1% 差 ▲8.9 ポイント

指導のポイント 立場を決めて意見文を書くときに、その「まとめ」が的確に書けているかを見る問題である。ここでは、「はじめ・なか・おわり」という3段落構成の「おわり」の部分の的確に書くことが求められている。そのためには、文章全体の構成をしっかりと組み立てておく必要がある。3段落構成は、文章を書くときの基本であり、きちんと習得させたい。

中1 数学

「数学的な技能」の定着に課題が残る

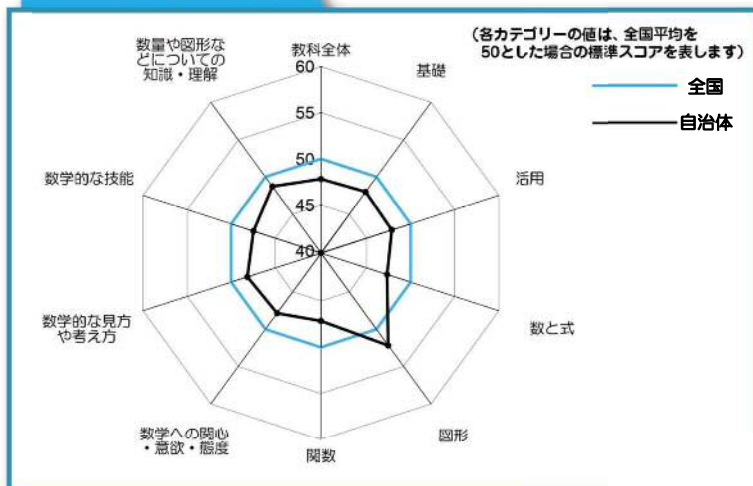
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		58.3	53.4	★
基礎		61.6	56.9	★
活用		45.0	39.4	★
領域別	数と式	58.1	51.2	★
	図形	57.0	62.0	★
	関数	59.4	53.7	★
観点別	数学への関心・意欲・態度	45.9	40.4	★
	数学的な見方や考え方	44.4	39.7	★
	数学的な技能	60.1	54.6	★
	数量や図形などについての知識・理解	63.0	60.0	★

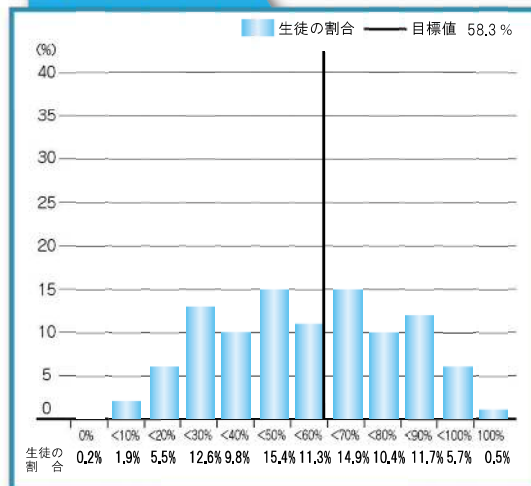
分析 コメント

- 中1数学は、教科全体の正答率が53.4%
- で、目標値を4.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数学的
- な技能」が54.6%で、目標値を5.5ポイン
- ト下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1次方程式

大問2(3)

<ねらい> 小数を含む1次方程式を解くことができる。

目標値 55.0% 正答率 41.3% 差 ▲13.7 ポイント

指導のポイント 誤答の主な原因としては、小数を含む方程式に習熟していないことなどが考えられる。xの係数が小数のままでも与えられた方程式は解けるが、計算が複雑になるので、 $a=b$ ならば、 $ac=bc$ という等式の性質を使い、小数を整数に直して解くよう指導する。その際、右辺のxの係数は小数ではないから10倍しないのでよいと思っている生徒もいるので、小数の項だけを10倍するのではなく、必ず両辺のすべての項を10倍するよう注意することが大切である。

文字式

大問1(4)

<ねらい> 1次式の減法ができる。

目標値 50.0% 正答率 39.8% 差 ▲10.2 ポイント

指導のポイント 同類項をまとめることに習熟していない生徒には、例えば $x+2x$ や $x-2x$ などで文字のまとめ方について復習させてから、本問のように文字の項と数の項がある式の計算について復習させるとよい。また、かっこをはずすときに符号の間違いをする生徒には、 $(4x+5)-(2x-3)=(4x+5)+(-2x+3)=4x+5-2x+3$ のように、ひく方の式の各項の符号を変えて加えればよいことを指導する。特に、後ろのひく方の式の符号を変え忘れないよう注意させる必要がある。

中1 英語A

「外国語表現の能力」の定着に課題が残る

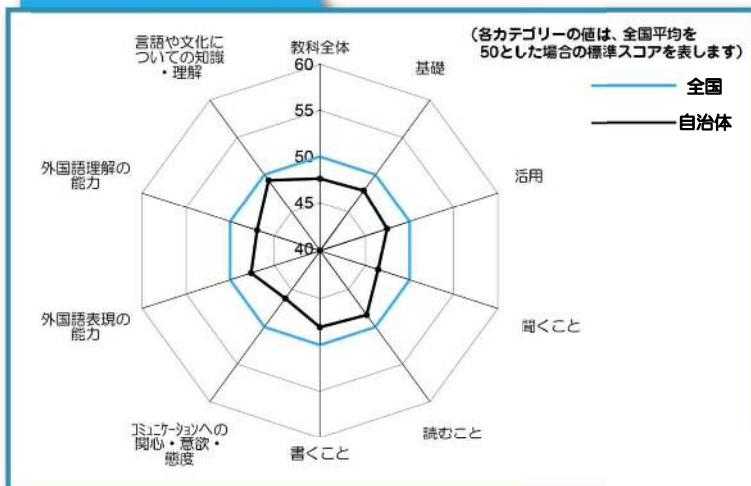
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		59.1	56.2	★
基礎		63.8	62.3	★
活用		47.5	40.8	★
領域別	聞くこと	70.5	66.9	★
	読むこと	58.3	55.5	★
	書くこと	51.2	48.5	★
観点別	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	63.7	59.5	★
	外国語表現の能力	45.6	40.5	★
	外国語理解の能力	64.4	60.2	★
	言語や文化についての知識・理解	55.0	54.7	★

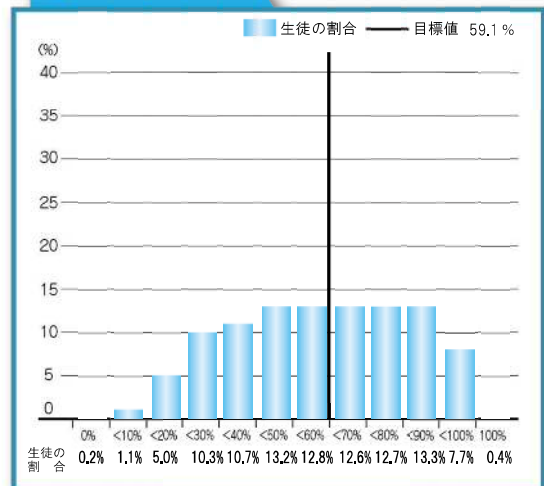
分析 コメント

- 中1英語Aは、教科全体の正答率が56.2%で、目標値を2.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「外国語表現の能力」が40.5%で、目標値を5.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

リスニング(対話文の応答)

大問4

<ねらい> 対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。

目標値 25.0% 正答率 7.4% 差 ▲17.6 ポイント

指導のポイント リスニングとライティングの融合(活用)問題である。聞かれている内容がCDの場所(where)であることを聞き逃さなければ、場所については確定できるであろう。on the bed, on the desk, by the windowなどの前置詞句は、理屈だけ教えても、定着させることは難しい。針金の先に紙の蝶を付けたものを、いろいろなところに止まらせて、「Where is the butterfly?」「It's above the desk.」といった問答を行うなど、実際の状況を設定して教えることが望ましい。

長文の読み取り

大問7(4)

<ねらい> 読み取った内容をふまえて、対話文を完成させることができる。

目標値 25.0% 正答率 9.6% 差 ▲15.4 ポイント

指導のポイント まず、本問の会話と英文との関連を理解して、英文の中から答えを探すということが前提となるが、答えに当たる部分のyearに注が付けられていることから、正答率の低下が懸念される場所である。ここではまず、会話中のWe have itのitが何を指しているかを理解できていることが大切である。授業においては、代名詞の内容について、生徒が分かっていると思われる場合でも、必ず確認することが大切である。

「書く能力」の定着に課題が残る

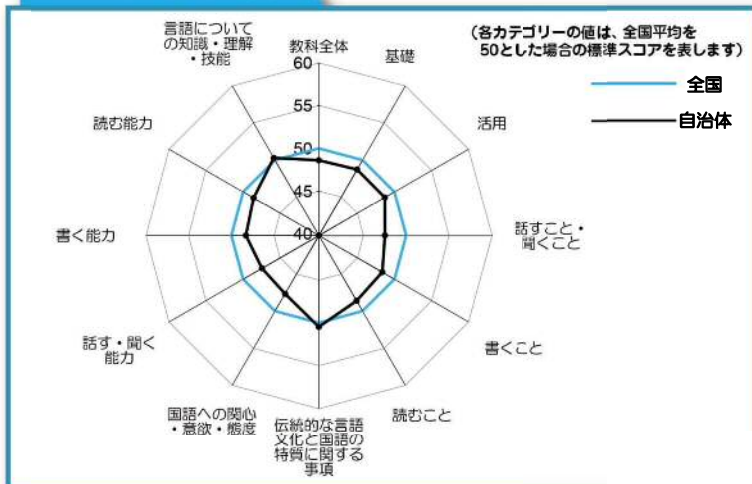
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		63.0	61.6	★
基礎		63.0	61.3	★
活用		62.9	62.8	★
領域別	話すこと・聞くこと	83.8	84.4	★
	書くこと	59.4	54.2	★
	読むこと	56.3	54.5	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.9	63.7	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	67.2	62.6	★
	話す・聞く能力	80.0	79.5	★
	書く能力	60.6	56.0	★
	読む能力	57.6	56.3	★
	言語についての知識・理解・技能	62.8	63.1	★

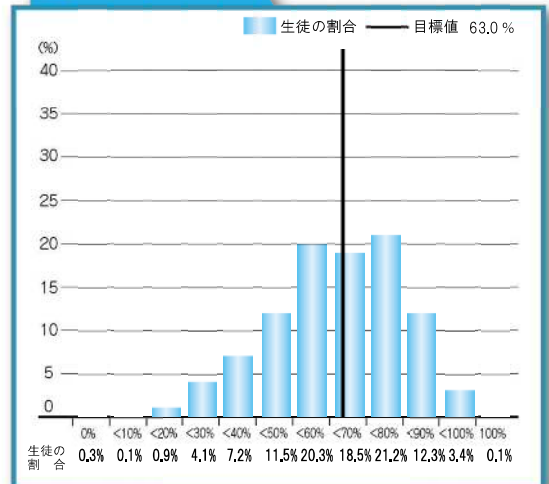
分析 コメント

- 中2国語は、教科全体の正答率が61.6%
- で、目標値を1.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語について
- の知識・理解・技能」が63.1%で、目標値
- を0.3ポイント上回った。一方、「書く能
- 力」が56.0%で、目標値を4.6ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 自分の考えを明確にして書くことができる。

目標値 60.0% 正答率 48.7% 差 ▲11.3 ポイント

指導のポイント 第一、第二段落で書いた内容を受けながら、自分の考えを書くことができるかを見る問題である。本問の作文では、「やばい」という言葉を例に挙げながら、世代によって意味の捉え方が異なる言葉があるということを示している。そうしたことを踏まえて、自分の言葉遣いについて考えたことを書かなければならない。文章を書くとは、一つのまとまりとして自分の伝えたいことを発信するということである。まず、自分は何を伝えたいのかを明確にしておくことが、素早くまとまりのある文章を書くために必要である。

アンケートをもとに資料を作って発表する

大問6(3)

<ねらい> アンケート結果をとらえたうえで、資料をよりよくするための意見を述べるることができる。

目標値 50.0% 正答率 40.8% 差 ▲9.2 ポイント

指導のポイント アンケート結果やその考察を基にして出された今後の取り組みが、どのような意見によってまとめられたのかを読み取る問題である。アンケート結果、考察、意見、今後の取り組みの関係について、まず押さえておく必要がある。すなわち、アンケート結果A～Dから二つの考察が出され、各考察が、今後の取り組み①と②に対応している。また、今後の取り組みを決める際、意見が決め手になっている。意見の空欄には、アンケート結果CとD、二つ目の考察、今後の取り組み②に対応した内容が入ることを理解させたい。

中2 数学

「数学的な見方や考え方」の定着に課題が残る

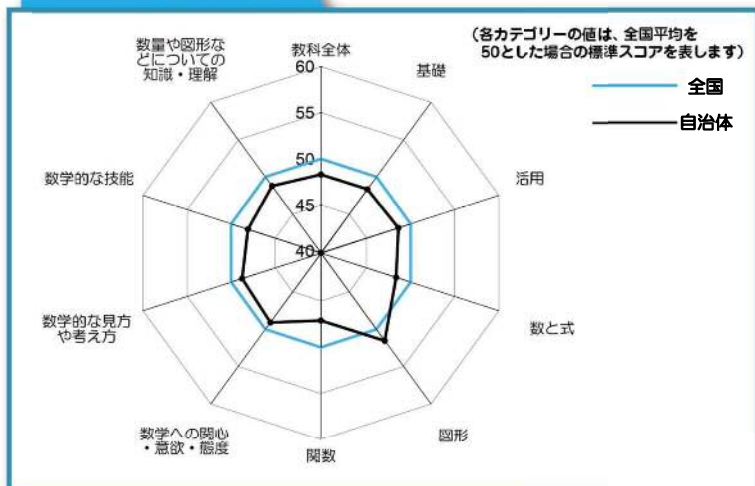
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		60.9	56.0	★
基礎		65.9	62.2	★
活用		41.4	32.1	★
領域別	数と式	62.0	55.9	★
	図形	60.0	66.3	★
	関数	60.0	51.4	★
観点別	数学への関心・意欲・態度	49.0	42.7	★
	数学的な見方や考え方	49.8	43.4	★
	数学的な技能	66.8	61.9	★
	数量や図形などについての知識・理解	59.2	56.1	★

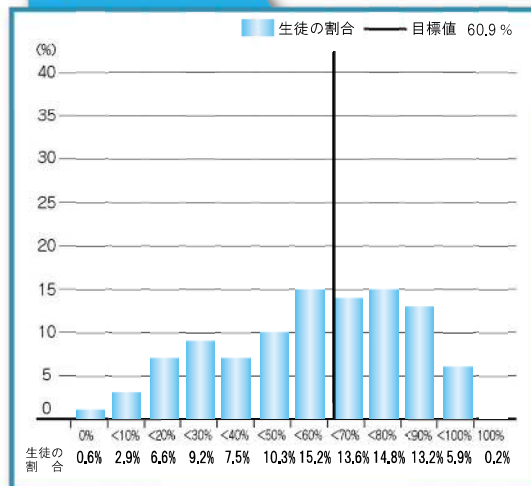
分析 コメント

- 中2数学は、教科全体の正答率が56.0%
- で、目標値を4.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数学的
- な見方や考え方」が43.4%で、目標値を
- 6.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1次関数

大問7(2)

<ねらい> 平行な直線と傾きの関係を理解し、1点を通る1次関数の式を求めることができる。

目標値 55.0% 正答率 39.6% 差 ▲15.4 ポイント

指導のポイント 誤答の原因としては、1次関数の式 $y=ax+b$ で a と b の意味を理解していないことや、 b の求め方が分からないこと、傾きの意味を理解していないことなどが考えられる。本問では、1次関数 $y=ax+b$ の x の係数 a が傾き4であり、 b を求めるためには x と y の数値-1と3をそれぞれ代入して、 b についての1次方程式をつくれればよいことを、丁寧に指導したい。

式の計算

大問16(3)

<ねらい> 連続する奇数個の整数の和について成り立つ事柄を指摘することができる。

目標値 25.0% 正答率 13.1% 差 ▲11.9 ポイント

指導のポイント 誤答の原因としては、【早紀さんと和んさんが考えたこと】の内容が理解できないこと、内容は理解できるが、それを文字 m で表す方法が分からないことなどが考えられる。連続する3つの整数の場合、2, 3, 4や3, 4, 5など、連続する5つの整数の場合、2, 3, 4, 5, 6や4, 5, 6, 7, 8など、ほかの数についても計算させ、何が違って何が変わらないのか考えさせる。3つの整数の場合には、(中央の数) $\times 3$ 、5つの数の場合には、(中央の数) $\times 5$ とまとめられることから、連続する m 個の数の和について考えさせる。

中2 英語A

「外国語表現の能力」の定着に課題が残る

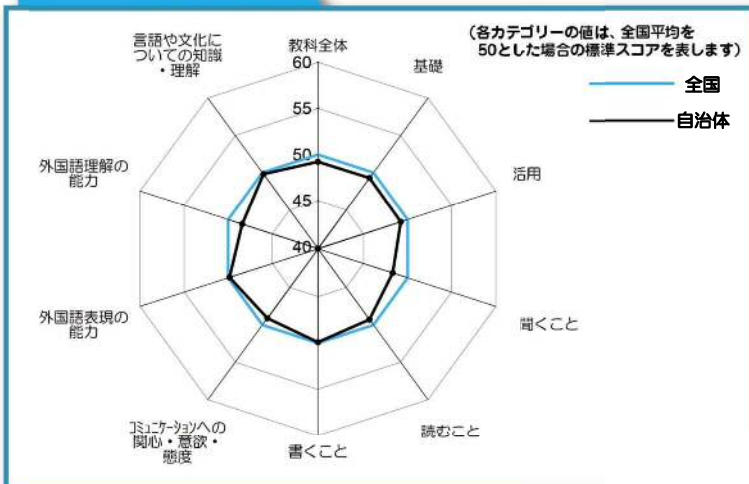
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		52.1	51.5	★
基礎		57.4	57.5	★
活用		39.0	36.6	★
領域別	聞くこと	68.5	67.3	★
	読むこと	49.6	49.1	★
	書くこと	41.9	41.7	★
観点別	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	57.3	56.1	★
	外国語表現の能力	38.8	36.3	★
	外国語理解の能力	57.2	56.4	★
	言語や文化についての知識・理解	51.7	51.7	★

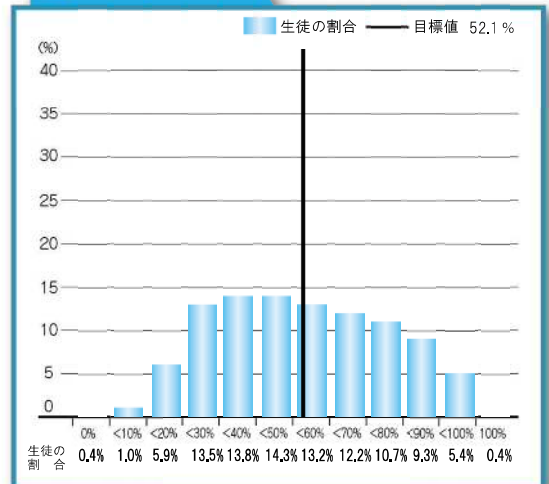
分析 コメント

- 中2英語Aは、教科全体の正答率が51.5%で、目標値を0.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語や文化についての知識・理解」が51.7%で、目標値と同等であった。一方、「外国語表現の能力」が36.3%で、目標値を2.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

場面に応じて書く英作文

大問9(2)

<ねらい> 対話の流れに合った英文を書くことができる。(場所をたずねる)

目標値 25.0% 正答率 15.3% 差 ▲9.7 ポイント

指導のポイント “We saw them at Asahi Park.” から想像して、whereという疑問詞を使うこと、疑問詞whereの後ろは疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、対話文では、対話全体の流れをつかむことが大切である。授業においては、オリジナルのスキットを作らせることで対話の流れを考えさせたり、教科書にある対話の一部を空欄にして、想像させたりするとよい。

リスニング(対話文の応答)

大問4

<ねらい> 対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。

目標値 35.0% 正答率 27.7% 差 ▲7.3 ポイント

指導のポイント リスニングでの質問を聞き取り、資料から必要な情報を探して、答えとなる英文を書く問題である。今日、アヤが夕食作りをすることと、“How about tomorrow morning?” “What are you going to do?” という質問を聞き取った上で、表の記載を基に、夕食作りをする次の日の朝/午前には、家の掃除をすることを答えればよい。このような活用問題については、まず慣れることが必要であり、授業において、リスニングとライティングを組み合わせられた活動を取り入れていきたい。